

## 4 間伐材の搬出促進

### I どのような事業か

森林資源の有効利用による森林整備を推進するため、間伐材の集材・搬出に対し支援。

#### 1 ねらい

水源かん養など公益的機能の高い良好な森林づくりを進めるため、間伐材の搬出を促進し、有効利用を図ることにより、資源循環による森林整備を推進する。

#### 2 目標

森林整備により発生した間伐材の搬出を段階的に強化し、平成 27 年度を目標に年間 24,000 m<sup>3</sup>の間伐材の搬出及び有効利用を図る。

#### 3 事業内容

##### ①□ 間伐材の搬出支援

林道から概ね 200m以内の森林を対象として、森林整備により伐採された間伐材の集材、搬出に要する経費に対して助成する。

【補助対象者】 森林所有者、森林組合等

【補助率】 定額単価

・集材を伴う場合（経費の 1/2 相当）	11,000 円/m <sup>3</sup> (H24年度時点)
・集材を伴わない場合（経費の 1/3 相当）	1,666 円/m <sup>3</sup> (H24年度時点)

（単位：m<sup>3</sup>）

搬出量	当初5年間					計
	H19	H20	H21	H22	H23	
目標	6,000	8,000	10,000	12,000	14,000	50,000

##### ② 生産指導活動の推進

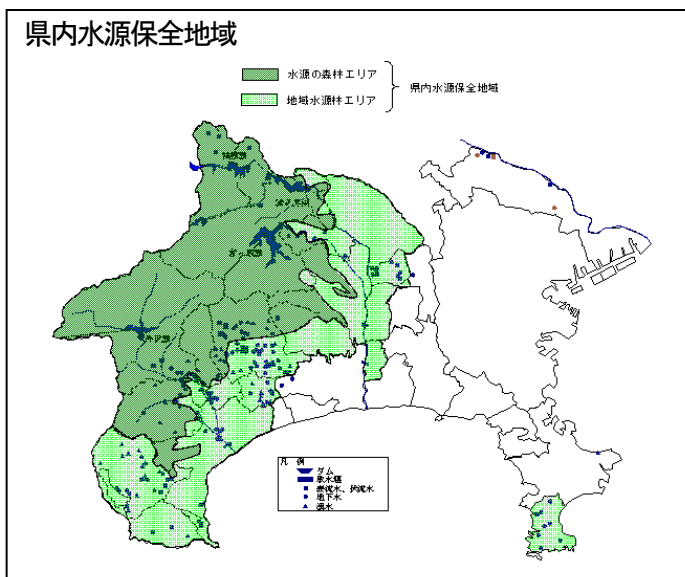
森林所有者に対する経営指導や生産指導を行う指導員を 2名配置し、森林所有者に対する間伐材の搬出への働きかけや山土場での技術指導を行う。

#### 4 事業費

当初5年間計 4億900万円（単年度平均額 8,200万円）

うち新規必要額 4億900万円（単年度平均額 8,200万円）

※ 水源環境保全税により新規に取り組むこととなった事業

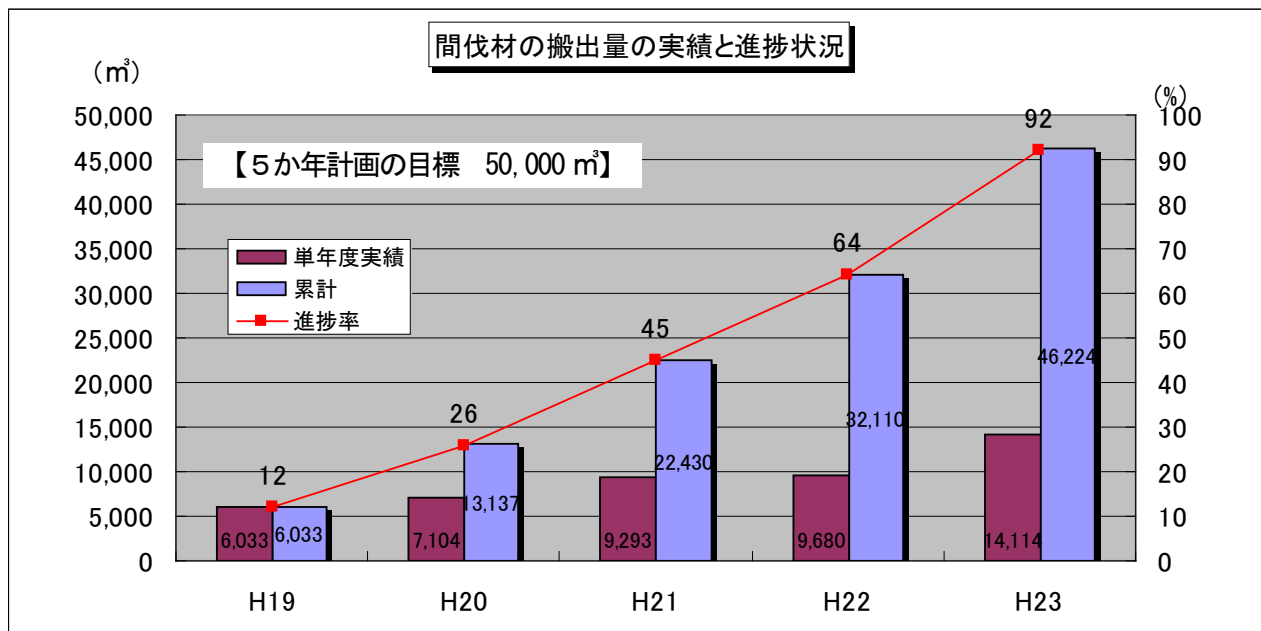


## Ⅱ 第1期5年間（平成19～23年度）で何をしてきたか

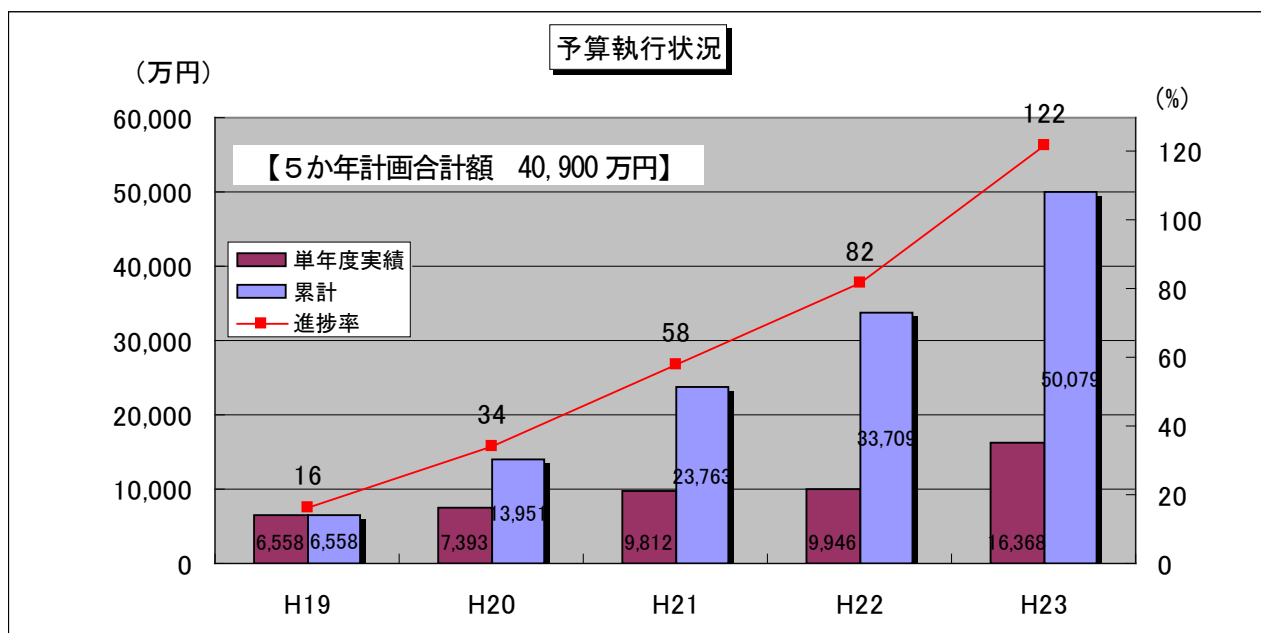
### 【5年間の取組の成果と課題】

（成果）○私有林からの間伐材の搬出が着実に増加し、資源循環による森林整備が促進。

（課題）●施業集約化や路網整備など間伐材搬出の生産性の向上の取組を併せて推進することが必要。



◇ 搬出量は年々増加し、5か年計画の目標量の92%の間伐材を搬出した。



◇ 5か年の計画額4億900万円に対して、122%である5億79万円を執行した。

造材指導中



間伐材の状況に合わせ、造材の現地指導を行った。

間伐材搬出中



間伐材を林業機械により搬出している状況。

【事業実施箇所図】（平成19～23年度実績）



◇ H19～23年度実績累計では、県内全域で46,224m<sup>3</sup>の間伐材を搬出した。

## 1 事業実施状況

### ① 間伐材の搬出支援（搬出量(m<sup>3</sup>））

（実施主体：森林再生課、各地域県政総合センター）

搬出元の森林の所在地	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
小田原市	713	758	587	1,059	1,007
相模原市	317	1,080	1,815	1,167	2,103
秦野市	1,189	1,934	1,334	2,072	3,085
伊勢原市	613	266	716	256	1,554
南足柄市	431	379	513	1,532	2,839
山北町	1,084	1,057	1,492	1,127	1,581
箱根町	962	990	2,349	1,493	965
湯河原町	274	81	350	277	526
清川村	450	363	137	181	161
厚木市	0	97	0	0	244
松田町	0	99	0	369	4
愛川町	0	0	0	147	44
合 計	6,033	7,104	9,293	9,680	14,114
搬出元の森林の所在地	5年間累計				
小田原市	4,124				
相模原市	6,482				
秦野市	9,614				
伊勢原市	3,405				
南足柄市	5,694				
山北町	6,341				
箱根町	6,759				
湯河原町	1,508				
清川村	1,292				
厚木市	341				
松田町	472				
愛川町	191				
合 計	46,224				

### ② 生産指導活動の推進

森林組合連合会が、森林所有者等に対して、山土場等で造材や木材の仕分けを指導した。

## Ⅲ 事業の成果はあったのか

### 総 括

毎年度の搬出量は段階的に増加しているが、5か年計画における事業量の目標（5年間で段階的に増加）に対し、92%の進捗率となっており、搬出促進が課題である。

今後は、着実な間伐材の搬出のために、県産木材の生産・流通・消費の循環を活性化させるとともに、採算性のある効率的な事業展開が必要であり、搬出方法についても再評価する必要がある。

また、間伐材搬出と水源環境としての森林の機能向上の関係を明らかにするとともに、林床植生などの水源環境の保全に対する配慮など、搬出の量的側面だけでなく、搬出方法についても点検・評価する仕組みが求められる。

### ○県民会議委員の個別意見

- ・過度な間伐材搬出奨励は、ノルマ的搬出量に捉われ、本来基本に考える水源環境整備が疎かになる恐れがある。
- ・搬出奨励で「水源環境保全税」を用いる以上、伐採・搬出手法に関するマニュアルも必要である。
- ・森林所有者に間伐の必要性を再認識させるため、森林関係団体や行政の積極的な指導が必要である。
- ・間伐する土地は急傾斜地が多く、作業を促進するためにも、重機類の開発や作業道の開設にも取り組む必要がある。
- ・搬出された間伐材の有効な利用方法の検討と、県産木材の生産（業材生産）と加工（高度利用）も並行して進めるべきである。
- ・間伐し太陽光が入れば、結果的に自然の雑木が生える。水源林も木材生産も物理的な過程は同じである。
- ・有効利用を定量的に評価する指標として「林業センサス」における素材生産の統計データとの整合で評価することが適切である（有効利用した樹種と数量、有効利用した素材生産の種類と数量 等）。
- ・支援対象となるメニューの拡充が課題である。
- ・間伐（木材搬出）の目的と水源税制の目的を整理して説明していただきたい。
- ・木材生産の意義付けをする必要がある。

## 1 点検・評価の仕組み

水源環境保全・再生施策の各事業の実施状況について検証するため、点検・評価の仕組みに基づき、①事業進捗状況、②モニタリング調査結果、③事業モニター意見、④県民フォーラム意見の4つの視点から評価するとともに、総括コメントを作成して点検を行った。

## 2 事業進捗状況から見た評価

間伐材の搬出促進のうち、①搬出支援の平成23年度事業実績（累計）は46,224 m<sup>3</sup>であるが、年度ごとの数値目標を設定している事業であるため、5年間（平成19～23年度）の目標に対する実績の達成率は92%となり、次の基準により、達成状況はBランクと評価される。

②生産指導活動の推進については、森林組合連合会が、森林所有者に対して、経営指導や山土場での造材や木材の仕分けを指導したが、数値目標を設定していないため、A～Dの4ランクによる評価は行わない。

年度ごとの目標を設定している事業

平成23年度の実績（累計）	ランク
5年間の目標の100%以上	A
5年間の目標の80%以上100%未満	B
5年間の目標の60%以上80%未満	C
5年間の目標の60%未満	D

## 3 事業モニタリング調査結果

### (1) モニタリング実施状況

この事業は、間伐材の搬出を促進し、有効利用を図ることにより、資源循環による森林整備を推進するものであるため、量的には間伐材の搬出量を指標とするが、モニタリング調査は実施しない。

なお、森林整備による「森林が適正に手入れされている状態」は、「1 水源の森林づくり事業の推進」のモニタリング調査により把握する。

また、長期的な施策効果の把握については、「11 水環境モニタリング調査の実施」における「①森林のモニタリング調査」の対照流域法等による森林の水源かん養機能調査や人工林整備状況調査を行い、森林の水源かん養機能等を把握する。

### (2) モニタリング調査結果

この事業の効果は、間伐材の搬出の促進を通じて、森林整備を推進するものであるため、モニタリン

グ調査は実施しない。搬出された材は、市場を通じて、有効利用された。

#### 4 県民会議 事業モニター結果

##### (平成20年度)

- 日程 平成20年9月10日(水)
- 場所 神奈川県森林組合連合会林業センター(秦野市菖蒲)
- 意見

県産の間伐材の集荷が増加しているのは、うれしい話でした。林業従業者が年間を通じて仕事を得られれば、生活の安定も期待できます。現状では集積場が手狭で、月に一度しか市を開けないそうですが、県産材が需要に応えられつつある状況に希望が見えました。

##### (平成21年度)

- 日程 平成22年2月10日(水)
- 場所 秦野市寺山
- 意見

秦野からヤビツに向かう県道沿いの山林、道路下側の急斜面で間伐された杉・檜の丸太材を運び出す作業をモニターしました。搬出作業は「ジグザグ集材」と呼ばれる方法で、林内に文字通りジグザグにケーブルを張り巡らし、ケーブルに沿って丸太をウインチで道路の集荷場所まで引き上げる作業が実施されていました。足場の悪い急斜面での作業なので作業能率を上げる難しさを実感しました。県産材の採算性を高めるためには、間伐材搬出作業の能率を上げるための重機の開発、機械化の導入が必要であると感じました。とは言え、林内の林床や下層植生を痛めずに狭い搬出ルートに適応する重機を開発する難しさも感じました。

##### (平成22年度)

平成22年度は事業モニターを実施していない。

##### (平成23年度)

- 日程 平成23年8月8日(月)
- 場所 神奈川県森林組合連合会林業センター(秦野市菖蒲)
- 意見

間伐材の搬出については、「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」で定めた目標に対し、平成22年度までの進捗率が64%であるため、23年度までには100%の達成ができるよう、改善されることを望みます。

#### 5 県民フォーラムにおける県民意見

(「県民フォーラム意見報告書」等(P13-1~)に記載。)